平成13年（2001年）10月1日毎月1回1日発行　協力／ENGEL・キングレコード・東映・東宝・フジテレビ

Kyoto Hollywood News
京都ハリウッド通信

平安京の闇を祓う！
「陰陽師」10月6日公開！

平安京――。源博雅（伊藤英明）は怨霊に取り憑かれた上官の命を救うべく、陰陽師・安倍晴明（野村萬斎）を訪ねた。博雅を出迎えたのは式神の蜜虫（今井絵理子）。蜜虫は博雅の目の前で蝶に変身してしまう。いきなりの摩訶不思議な出来事に博雅は戸惑うが、人を食ったようで、どこか憎めない晴明に魅力を感じる。晴明も真っすぐな心を持つ博雅に心を開くのだった。

その頃、内裏では陰陽頭・道尊（真田広之）が「都の守り人」出現を予言する。その導尊が指差したのは左大臣・藤原師輔の娘・任子の腹だった。任子は帝の子を宿し臨月を迎えていた。ほどなく任子は男子を出産。赤子は敦平と命名された。

一方、晴明は都のあちらこちらで物の化たちが蠢き始めた事を感じていた。ある夜、晴明は敦平に強い呪（しゅ）がかけられている事を察知。この謎と呪を解くために、不思議な過去を持つ女・青音（小泉今日子）を呼び寄せた。だが、この事件は長岡京が10年で遷都を強いられた大いなる謎と絡み、晴明たちを襲い始めた…。

先月もお伝えした夢枕獏原作「陰陽師」のストーリー。これが遂に完成した。10月6日より全国東宝系劇場にて公開される。当作品で既報の主演・野村萬斎と並んで注目なのが脚本。原作の映画化権を'99年に獲得以来、丸2年を費やして脚本が練られている。

この脚本作りには原作者の夢枕氏自身も参加。原作の「雅な闇」を最大限に活かした映画版「陰陽師」のストーリーが誕生した。

晴明（野村萬斎）は宿敵・道尊（真田広之）と対決する。真田広之の冷酷無比なキャラクターが大きな見所だ

源博雅（伊藤英明）は晴明と共に平安の闇に巣くう物の化や怨霊と闘う

晴明は怪事件を解決するため、謎の過去を持つ女・青音（小泉今日子）を呼び寄せた。青音は避ける事の出来ない、ある宿命を背負いながら平安京を守護していた

ついに解禁！天海祐希の光源氏
東映創立50周年記念作品
「千年の恋 ひかる源氏物語」

ついに解禁された天海祐希演じる光源氏の凛々しいお姿。映画は完成後、世界規模のプロモーション活動が行われる

製作費14億円の東映創立50周年記念大作「千年の恋 ひかる源氏物語」で、これまで極秘とされていた天海祐希演じる光源氏の凛々しくも美しい姿がようやく解禁。「男役は二度とやる事はないと思う」と言って宝塚を退団して6年、久々に演じた男役が今回の光源氏だ。

天海は29着の豪華衣装をまとい、高島礼子、常盤貴子他、11人の女優とラブシーンを演じた。映画は完成後、10月下旬にロサンゼルスでワールドプレミア試写会が行われる事も決定。現地では天海や吉永小百合の舞台挨拶も予定されており、海外上映も視野に入れた大々的なプロモーション活動を精力的に行っている。

天海は「女優をサポートし、美しく見せる事に専念した」と演技プランを語り、「男性を演じる事で変化があるのは見た目だけ。感情は男女共通」と持論を展開。劇中、年齢を重ねる毎に声のトーンを低くするなどの工夫をしている。

11月上旬には新幹線の団体専用列車を使い、京都での試写会ツアーを開催、天海源氏の写真集発売も11月下旬に決定。堀川とんこう監督も天海源氏には大満足、「生臭い男女のラブシーンも、天海源氏により不思議な美しさと妖しさが漂う」と絶賛。公開は全国東映系劇場にて12月中旬の予定。

市川右太衛門追悼企画
「旗本退屈男」
絶賛放映中！

映画黄金期、東映京都撮影所で製作され、一時代を築いた市川右太衛門主演映画「旗本退屈男」シリーズは、主人公・早乙女主水介の豪快な役柄と派手な衣装、華麗な殺陣で多くのファンを魅了した。

今回、99年に他界した右太衛門の3回忌を前にして、右太衛門の実子・北大路欣也が退屈男を襲名。俳優としても尊敬する父親に追悼の意を込めて、21世紀に相応しい退屈男を新たに創り上げようと挑戦したのが、今回のフジテレビ火曜時代劇「旗本退屈男」なのである。

北大路欣也はこれまでにも舞台やドラマで退屈男を演じているが、右太衛門はそんな息子の晴れ舞台を喜ぶ半面、「退屈男は俺の役」と話していたという。「退屈男」に一番惚れ込んでいたのは、右太衛門本人だった。生前「百歳になってもこの役は渡したくないね。主水介の衣装から所作まで、何から何まで自分で考え作り上げたんだから」と語っており、その思い入れの強さがうかがえる。

右太衛門は「主役以外の役は演じない」と、晩年は一切ゲスト出演のオファーを断り、悠々自適に過ごしたという、まさに大スターらしい伝説を持つ大スター。住居は北大路にあり、「北の御大」と呼ばれていた。北大路欣也の芸名も、実家のある北大路に由来する。父・右太衛門の遺志を継ぎ北大路欣也が熱演の「旗本退屈男」は毎週火曜・夜8時にフジテレビ系で絶賛放映中。

解説・旗本退屈男とは？

「天下御免の向う傷、直参旗本早乙女主水介、人呼んで旗本退屈男」という名セリフと共に、江戸の庶民には「退屈の旦那」と慕われている千二百石の旗本・早乙女主水介が主人公。かつて逆賊に襲われた将軍家斉を救った時、額に三日月形の向う傷を受けた。その功績により将軍から、この傷の行く所、思うままの勝手次第、「天下御免」の許しをいただく。無役で独身なので暇はあり、退屈の虫が騒ぎ出すと事件を追ってどこへでもふらりと出かけて行く。剣は諸羽流の奥義を極めた達人の腕前である。

退屈男の名物は劇中に何度もお色直しする絢爛豪華な衣装。その何点かは右太衛門が実際に着用した秘蔵の逸品

北の御大と呼ばれた父・市川右太衛門の遺志を継いで、実子・北大路欣也が21世紀の「退屈男」を演じる

主演コメント／北大路欣也

昭和5年以来の父の映画作品ですが、数十年たった今でもこの作品の息吹を止めないで継続して行こうというスタッフたちの情熱の凄さを感じました。主水介は父が作り上げ、「絶対」の自信を持って演じた人物です。私にはとても到達できる境地ではありませんが、まず「らしく見える」事から始め、一歩一歩近づき、力、明るさ、おおらかさを少しでも表せたらと念じながら演じてきました。主水介のトレードマーク、額の三日月傷も大、中、小と何種類も作り、時と場所、状況に合わせて使い分けられるようメークさんに工夫していただきました。父は舞踊が大変得意で好きでしたので、その立ち回りは「舞うがごとく」という形容そのままでした。父の作品のビデオを全て見て、様々な立ち回りの型、動き、刀さばきの良い所を参考に、殺陣の方と相談しながら自分なりのものを作りました。また派手で絢爛豪華な着物は、衣装さんが大事に保管してくださったおかげで、父が愛用した何点かはそのまま着る事が出来、いっそう身の引き締まる思いがしました。また、デザインはそのままで新たに作った衣装は数十点にもなりますが、今見ても時代の古さを感じさせない、よりモダンで粋な、素晴らしい衣装です。時代劇の持っているコスチュームプレイの楽しさも、充分味わっていただけると思います。父が完成したこの役を、私は譲り受けるのではなく、その魂を受け継いでチャレンジしていかねばという思いで演じました。この思いが伝わり、小学生、中学生の方たちにも面白く見てもらえるよう作りました。ご期待下さい。

2000%の迫力で監督デビュー
服部大二・第1回監督作品
「くノ一忍法伝 華艶淫火」

あやめ（島田沙羅・右）と鈴（亜崎晶・左）は宿敵・獅子丸を倒せるか？

第1回作品を精力的に演出する服部監督。「ラストシーンはミュージカルじゃないけど、踊りたい」など、あっと驚く秘策を練る

松竹京都映画演出部で助監督を務めていた服部大二君が来年にENGELより発売されるVシネ「くノ一忍法伝華艶淫火」で監督デビューを果たした。'72年生まれの服部君は入所当初は20歳代で監督デビューをと考えていたが、ここ2、3年は30歳代でもと考えていたという。それが本年7月に今回の作品の監督に抜擢されるかも、との話がプロデューサーより来た。その直後、助監督を務めた「さくや 妖怪伝」がカナダの映画祭に出品されるので、カナダへと飛び立った服部君だったが、そこで大きな刺激を受ける事となった。映画祭では自分と同年配の監督たちが堂々と自分の作品について壇上で語り、ライバル心を燃やした服部君は帰国早々に今回の作品の演出をしたいと希望、20歳代で監督デビューの夢を実現したのである。

島根県から高校卒業後、大阪の映像関連の専門学校に進学。そこの紹介で夏休みにアルバイトとして出向いた松竹京都映画にそのまま居座り、結局学校には以降、卒業式を含めて二日しか出席しなかったそうだ。元々は俳優志望だったが中学高校と映画を見ているうちに監督になりたいと志望変更。好きな映画はコメディやラブストーリーで、時代劇は入所するまで特に興味はなかったという。しかし、自分が父親とテレビで見ていた「鬼平」や「必殺」の現場に付いて、知っている作品に付ける楽しさも手伝い、時代劇の面白さを知る事となった。

デビュー作である本作の撮影は8月12～15日に行われ、文字どおり不眠不休の苛酷なスケジュールの中で大役を果たした。脚本は正統派時代劇であったが、それが逆に飛躍出来ると考え、新しい時代劇をと工夫。中途半端な作品ではなく、「あの監督のデビュー作はこんな作品だった」と言われるような、良くても悪くても極端な、カルト的な作品を目指したという。

今回、監督を務めて実感したのは「映画は総合芸術だ」という基本的な事だという。「今更何を言うてんねん」と笑われるかと思いますけど」と言う服部君だが、改めて認識した映画の基礎が、これからの監督としての貴重な礎となる事だろう。

ストーリー

北条忍者・竜庵とくノ一・あやめ（島田沙羅）は、自分たちの里を壊滅させた獅子丸を倒すために腕の立つ剣士を探していた。あやめの姉で竜庵の許婚・雫（及川奈央）は仲間を裏切り、獅子丸と共に天下を狙っていた。ある日、あやめは浪人姿で旅をする口のきけない女・鈴（亜崎晶）と出会う。その見事な剣さばきに竜庵は協力を求める。幻の忍法「華艶淫火」とは何か？ 浪人姿で旅をする鈴の目的は？ あやめと竜庵は獅子丸の野望を阻止する事が出来るのか？

原作者コメント
「『陰陽師』映画化のきらめき」
夢枕獏

晴明の側には式神・蜜虫（今井絵理子）が付き添っている。式神とは陰陽師が使役する目に見えない鬼神の事である

「陰陽師」映画化にあたっては、晴明役にぜひ野村萬斎さんにやっていただきたいと10年くらい前から考えていたのである。その望みがかなって大変嬉しい。相方の源博雅には伊藤英明さん。若い役者では伊藤英明がいいよと、知人の映像関係者から聞いていたので、これも楽しみなキャスティングである。晴明に対する敵役の陰陽師道尊は真田広之さん。歳を重ねながら、どんどん色気を増して行く役者がいるが、真田さんはそういう数少ない役者の一人である。野村萬斎、真田広之という二人の役者の色気が映像の中でどういう空間を創り出してゆくのか、さらに「風花」で透き通るような演技を魅せてくれた小泉今日子さんが、青音というミステリアスな役で絡んでくることを考えれば、今からどきどきしてしまうのである。これに蜜虫役の今井絵理子さんが花を添えるという大変豪華なキャスティングで、原作者としては夢のような心地である。滝田洋二郎監督とは、脚本を作って行く途中で何度かお会いして話をさせていただいたが、これは僕にとって大変貴重な体験となった。現場の方と現場の話をするのは面白く話がわかりやすい。映画「陰陽師」今から楽しみにしているのである。

TOPICS
「日本怪談劇場」

名作「東海道四谷怪談」、カルト作品「地獄」など京都生まれの怪談映画の巨匠・中川信夫監督も演出に名を連ねる怪談テレビドラマの金字塔「日本怪談劇場」が待望のDVD化、キングレコードより発売された。

中でも断トツの出来は、やはり中川監督が演出した「牡丹灯籠・鬼火の巻」「同・蛍火の巻」の前後編。テレビドラマでありながら国立近代美術館にフィルムが収蔵されていると聞けば、どれほどの名作かご理解いただけるだろう。21世紀は埋もれたカルトな作品が次々とCSで放映されたり、ソフト化されたりと、まったくいい時代になったものです。珠玉の怪談ドラマ「日本怪談劇場」のDVD全4巻はキングレコードより発売中。1巻のみ5880円、2～4巻は各4935円（価格は税込み）。

「壬生義士伝」

毎年恒例のテレビ東京長時間時代劇、今回は浅田次郎原作「壬生義士伝」に決定。意外なことに幕末ものはシリーズ初。主演は渡辺謙。

今月の言葉

小生がメインライターとして脚本を執筆する、今月より朝日放送で土曜夜6時半より放映の「警部補マリコ」（主演・宮崎美子）も、この原稿を執筆中の8月中旬の時点で、まだ撮影が開始されていない状態。台本の印刷がお盆明けというタイトなスケジュールで進行中の最中、スカイパーフェクTV！で9月16日放映の必殺特集番組の製作も兼任。これまた現時点で台本も書けていない煮詰まった状況。年末までタイトなスケジュールに思いやられる毎日。

2001年10月1日
山田誠二

責任編集人　山田誠二

1963年生まれ。京都を拠点に、映画のプロデュース、脚本、評論の他、コミック原作など多方面で活躍の作家。映画関連著作多数執筆。